
会報 2014年10月号



日本ニュージーランド協会 (関西)

創立 1970 年

New Zealand Society of Japan ,Kansai

芸術・読書・スポーツ・食欲の秋になりましたが、ニュージーランドでは各地で春の花々が咲き始めています。国花のコーファイの黄色い色を覚えている会員の皆さんもおられるでしょう。マヌカの花は11月からですが、マヌカ・ハニ-は有名になりました。日本の秋の情緒は、子規の有名な句に代表されるようです。

If you eat a kaki ,the bell ring in Horyu-ji Temple

ニュージーランドでは、9月20日の総選挙でジョン・キー首相率いる国民党が勝利し、来年には国旗の変更について国民投票をするそうです。

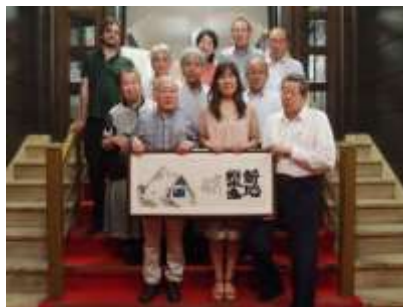
会員対象のアンケートは71名の会員のうち42名の皆さんから回答をいただきました。結果報告を同封いたします。貴重なご意見は協会運営の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。ご提案などは、いつでも事務局へお寄せいただきますようお願いいたします。

年会費は、昨年未収も含め全員の入金をいただきました。ありがとうございます。当協会は、補助金などはなく、年会費をもとに運営しております。会員3名から少し値上げのご提案がございましたが、今のところ特にその必要はないと考えております。

7月号で予告の通り、年内に3例会がございますが、お繰り合わせのうえ、多数ご出席いただきますようご案内申し上げます。



6月24日臨時例会



9月13日 246回例会

事務局：大阪市西区江戸堀1-23-26 西八千代ビル3階C

N.S.コンサルタント内 電話：(06) 6607-2112

HP : <http://nzsocietykansai.com>

E-mail : nzsjk1970@yahoo.co.jp

第247回例会のご案内(京都大学)

7月号で予告いたしました通り、山内龍男会員のご尽力をいただき開催します。

10月11日(土) 11時00分～15時30分頃

時計台記念館・総合博物館の見学、ミニ講演会等秋の京都をお楽しみください。

*詳細：別添案内状に掲載

第248回例会のご案内

(奈良五条 柿狩り)

毎年大好評で今回は4回目になりますが、今回は現地集合で行います。受け入れていただく会員の太津さんは、柿の渋抜き方法の特許をお持ちで、黄綬褒章も受けられておられます。ニュージーランドの果樹産業にも造詣が深い柿づくりの名人です。4月中旬から2ヶ月ほどニュージーランド産の柿を見かけますが、1個600円程度です。

ご存知の通り、柿には風邪予防・美肌効果・高血圧予防・二日酔いなどに良いそうです。

皆さんは、You have to eat many **kaki** in a year! 生産量は、中国・韓国・日本・ブラジルと続きニュージーランドは9位です。太津さんからは柿にまつわる興味深いお話が伺えます。遠方の皆さんも是非世界の柿の中心地(五条)へお出てください。例会のお世話は松元さんをお願いしております。(今は、NZ産キーウィをいただきます)

11月15日(土) 10時40分～16時頃

集合：近鉄下市口駅 10時40分

参加費：2000円(昼食含む)

持参品：袋・軍手。 カジュアルな服・靴で。

*詳細：別添案内状に掲載

第249回例会

「クリスマス例会」のご案内

恒例のクリスマス例会にご家族・友人をお誘いあわせのうえご参加ください。

今年のゲストは、**異色のオペラ歌手、鶴澤美枝子**さんをお招きします。楽しい例会にしたいと思いますので、ご協力よろしくお願ひします。

12月23日(祭日)11時30分～14時30分

神戸外国倶楽部、トアロードの突き当り。

毎年の会場です。三宮からクルマで10分

NHK神戸から北へ徒歩10分

電話：078-241-2588

受け付け開始:11時00分～

- プログラム
- ・ゲストの鶴澤美枝子さんの歌
(日本とNZなど)
 - ・1分以内のテーブルスピーチ
(テーマ 自由)
 - ・プレゼント交換(1000円程度～
高価なものは不要、手作り品も)
 - ・ビンゴゲーム(例年より短く)
 - ・オークション(あまり大きくない
品図書、記念品なども歓迎)
売り上げは協会運営費に入ります
 - ・NZ関係クイズコーナー等

ゲスト紹介：高松市出身、1951年生まれ。

幼少のころ重度の病を患い厳しい環境で育つ。

思春期にオペラと宝塚に感動して歌への夢を抱くようになった。

ここまでは誰でも一度は夢を見ますが鶴澤さんはここからが厳しい努力で誰にでもできない彼女の弱い身体に合わせた発声法を長年かけて、自身で完成させた。その後、50歳を過ぎて単身ニューヨークに渡り、マンハッタンでストリート・ライブを披露。世界に通用することを実感され

た。昨年7月、さぬき市の野外劇場「テatron」に3000人を集め、東北大震災被害支援「魂の叫び」を開催、大盛況を修めた。現在に至って活動の主拠点を各地の神宮にし、御奉納・御奉唱されている。

参加費：5500円（飲みのも代別）

締め切り：12月12日（金）

15日以降は全額のキャンセル料をいただきます。

申込み：電話・Fax 06-6607-2112

e-mail : nzsjk1970@yahoo.co.jp

*お断りの場合のみ、事務局からご連絡します。



神戸外国倶楽部

New Zealandの紅茶事情

仕事柄(紅茶の輸入販売をしております)、紅茶に関する講演、エッセイを依頼されることが多々あります。



ムジカ・堀江さん

先日も大阪・天神橋にある著名なイングリッシュ・スタイルの「茶摩」という紅茶の店で20名程の紅茶好きの方を対象とした集まりに、スピーカーとして参加させていただきました。実は、こ

の集まり2ヶ月に1回、「T-SANのぶつぶつお茶会」という趣旨のもとで、そのつどテーマを変えて既に5回目になります。普通、紅茶の話となれば、おのずと「紅茶の上手ないれ方」とか「イギリスのアフタヌーン・ティー」等々とパターンが決まっているようです。

そこで、ちょっと天の邪鬼な私は、あえて紅茶好きの方が、想像もしないNZを選びました。そのタイトルは「イギリス以上に紅茶飲みの国NZ」。実は、それには確固たる理由があります。私が40年前に、紅茶の勉強をしていた時に、紅茶の原産国(生産国)、それに消費国のマーケティングをするにあたって、紅茶の消費国としてイギリスよりもNZを選びました。なによりもNZは英連邦(オーストラリア・カナダ・NZ)の一つであること。この3ヶ国の中でNZが最も頑固に、あの伝統的なイギリスの紅茶文化を伝承していることです。それが証拠に統計上(2011年)一人当たりの紅茶消費量が1位のアイルランド(2.18kg)、2位のイギリス(1.92kg)、3位のトルコ(1.90kg)に次いでNZが4位(0.99kg)になります。参考までに5位CIS諸国、6位インドです。

ところが、紅茶がNZの人々にとって、それ程重要な日常茶飯の飲料になっていることがあまり知られていないようです。例えば、NZ観光旅行から帰ってきても(NZで現地の人と例え一週間でもホームステイをすると紅茶のある生活が見えてきますが。)人に教えてもらわなかったら、NZの人々が紅茶飲みであることに気が付かないようです。言われてみて初めて、そういえばNZでは紅茶を楽しむシーンによく出くわしたみたい…となります。

紅茶ブームのように見える、消費量の少ない日本では、紅茶は日常飲料ではなく、ファッションの一部として、日常紅茶をあまり飲まない人々にフレーバーティーとか、やたら用量の少ない値段の高い紅茶が一過性嗜好飲料として消費されています。

そこで、一体NZではどんな飲まれ方をされているのか、少し書いておきましょう。まず、世界第4位であるNZの消費の仕方は一日に何回も飲むということです。即ち“Anytime is tea time”、

早朝の bed tea から始まって、くつろぎの夜まで。故に購入単位が、日本で売られている雑貨的な感覚の超少量単位の 20g とか 50g とか 100g といった単位ではなく、TB でも 20 袋入りパックを何パックか、それとも 100 袋入りとか家族の多い家では 400 袋入りを購入します。Loose Tea(リーフティ)の場合は 250g のパッケージ、または 250g のものなど複数のパッケージを在庫しており、中には 2kg 詰めのパッケージを購入して、可愛い好みのティーキャディーに小分けして台所に置いてあります。彼等の使用するブランドはほぼその家族が代々愛飲しているブランドを継続して使っているようです。一番有名なのが、いわゆる “Feel Alive” “Famous New Zealand blend” のコピー黄色(最近赤に変更)の “BELL TEA” またはパッケージに文字だけが大きく印刷された “CHOYSA TEA” が NZ で常に張り合っているブランドです。



地元紙より

他にマイナーなブランドとして “Tiger Tea” “Amber Tips Tea” “Edglets Tea” 等があります。これらの紅茶は、いわゆる伝統的なイギリスのブレンドの技術で、ティーテイストリングされた紅茶がブレンドのノウハウで、典型的なミルクティー用にブレンドされています。参考のために最も有名な Bell Tea にブレンドされている原産国名を書いておきましょう。中国、インドネシア、アフリカ、アルゼンチン、スリランカです。

これ以外に、紅茶好きでもあり、ちょっとマニアックな家庭では日常茶以外にイギリスのブランド、トワイニング等のスペシャルティー(アールグレイ、キーマン、ダージリン)を特別なオーケイジョンに楽しんでいるようです。最近ではスリランカの著名な茶商の “Delmah Tea” が他国の茶葉

がブレンドされていない “Pure Ceylon” を売り物に NZ 市場にかなりくいこんでいるようです。

最後に、ちょっとショッキングなニュースとして、NZ で歴史のある最古の Bell Tea(1898 年に Norman Harper Bell によって登録された NZ で最も古い茶商です。日本でも有名なクーポンを集める “ベルマーク” の起源にもなったと言われている) 南島 HOPE STREET DUNEDIN にある工場が建物の老化と地震との関係で閉鎖されたことです。勿論、Bell Tea は北島にある Auckland East Tamaki Road にある近代的なオークランド工場生産されます。ご安心を。

いずれにしろ、もし NZ に行かれたらどうか紅茶のある生活を満喫して下さい。



MUSICA TEA

堀江 敏樹

ニュージーランド北島(東海岸)旅行紀

以前、ニュージーランド北島の東海岸をドライブ旅行したことがあり、寄稿しようと思いました。長い旅をするときには、いつも小さな手帳を日記帳として、又、小遣い帳として持ち歩く習慣があります。今回、その手帳の行方が分からず、ただ、写真が残っていたので、写真を見ながら思い出して書いてみました。また、手帳が出てきたなら詳しく伝えたいと思います。



北島の東海岸といえば、以前、日本でも上映された映画「クジラの島の少女 (Whale Rider)」の撮影場所です。マオリ族の少女（これまで女性は部族の長として認められなかった）が、部族のリーダーとして認められていく内容だったと思います。映画の終盤に、少女が浜辺に打ち上げられた大量のセミクジラを見て、1頭のクジラの背にまたがりその少女の不思議な力で海に戻し、他の全てのクジラがそれを追うように海に戻っていく…。最後は、少女が村人と共に伝統的なカヌーで航海に出ていく…。そのような内容だったと思います。

私の写真の日付は、2002年3月の下旬ですから、この映画が出た年になります。私は当時、世界で日の出が最も早い(今はキリバス国らしい)NZ 東海岸を一度訪れたかったのと、当協会の創設者ドクター川瀬の著書の中で、留学時(1930年代)、この地方に2人の日本人が住んでいたということを知って、どのような所だろうと思い、行ってみることにしました。

後で私の職場に英語の講師で来ていたNZ人に、東海岸に行ったことがあることを話したら、「NZ人でも滅多に行く人はいない」と言われました。

以下は、思いで話のような形で旅行記を書きますが、記憶が混ざり合って分り難いかと思います。お許してください。



イースト・ケープを眺める

オークランド空港に到着後、市内のレンタカーの店で、車(日本車)を1週間借りることにしました。オークランドからコロマンデル半島(東側の海岸が美しい)を回り、農場でハチミツを買いました(タイリア)。犬を放し飼いでいて、怖い思いをしました。マーキュリーベイ(金星湾)の少し南、フィティアンガ近くで砂浜に温泉の湧く場所があり、観光地になっています。ファンガマタで小学生が何人も、子供用のサーフィンボード(少し小さい)を抱えて、自転車で海の方に向かう姿に出会いました。この辺りの子供たちの放課後の楽しみなのでしょう。(翻って、日本では学習塾をはじめ、習い事が繁盛しています。)ワイヒは、鉱物の露天掘りをしています。ワイヒとはマオリの言葉で「矢を放ったら、刺さった場所から水が噴き出した;ワイヒヒ」だったと思います。タウランガはきれいな街です。少し進むと、マウント・マンガヌイがあります。(海に突き出した山のようなです。)テ・プケにはキウイフルーツの農家がたくさんあり、果樹栽培のテーマパークもあります。日本に輸出するキウイフルーツのゼスプリ社のアドレスは Mt. Manganui South です。マケツ(マオリ族が最初にアオテアロア<NZ>に到着した場所)を過ぎ、ファカタネやオポチキの海岸からは沖の活火山島・ホワイト島が見えます。今も白い噴煙を出しています。多くの人は、オポチキから南下してギズボーン(大きな町です。)に行きますが、私は東のイーストケープ(東岬)方向に向かいます。地元の人に東回りでギズボーンま

.....
でどれくらいの時間がかかるのか聞くと、「遠い。何泊かしないといけない」と言われました。地図では分かりませんが、海岸線の道路はカーブが多くて、スピードは出せません。旅人には、今、地図上でどこにいるのかも分からない状態でした。この辺りの海岸の波の音は、今まで聞いたことがない程の轟音です。波が高いのと、押す波・引く波に石ころがゴロゴロと転がる音が入り、恐ろしい位でした。この辺りの住民の多くはマオリの方々です。別荘のような家も時に見られます。海岸近くの畑はトウモロコシを作っています。車には時々出会う程度です。イーストケープ（東岬）までの海岸は黒い岩石が多かったように思います。東岬近くの土地は民有地の看板が出ていました。道に車を停めて岬まで歩いていきました。この辺りの海岸は白い岩でした。(丸い石ころを自宅に持ち帰っています。)ここからもう一度同じ道に戻って国道39号線に戻ります。この辺りはギズボーン地方(ギズボーン・ディストリクト)です。テ・アラロアには学校やラグビー場があります。お店で休憩しました。傍の広場で子供たちが何人か集まってビー玉遊びをしていました。(地面に穴を掘ってゴルフのような遊び)日本の遊びだと思っていたので驚きました。「マーブル」という呼び名でした。大人の人に昔からやっている遊びなのか聞くと、「昔からの子供の遊びだ」ということです。どの町・集落にもマラエ(マオリの集会場)があり、立派な彫刻をしています。《以前、ある町でマラエの中に入れてもらったことがあります。家の中の彫刻や絵もきれいです。寝泊まりするための布団をたくさん積んでいました。絵や彫刻はいくつかに分かれて構成されていますが、これを繋ぐと物語になるそうです。》東岬から南下していく海岸線は、どの湾もとても広く大きな砂浜です。

目的地のルアトリアという町で宿を取りました。ホテルは一軒だけ(古い様式建物)です。1階がレストラン(夜はパブ)、2階に泊まる部屋がいくつかあります。夕方、1階からポピュラー音楽が流れて、大勢の人の賑やかな話し声がします。部屋から降りて、食堂に行くと、20人程の男たちがビールを飲んで食事をしていました。みんなマ

オリ族の血を引く人々です。若者から壮年まで食事をしています。マオリの人は、腕や脚、胴体にタトゥー(入れ墨;ポリネシア語です。)をしていて、日本人の私には少し異様な雰囲気を感じました。若者が何人か寄ってきて、「一緒に食事をしよう。どんな料理がいいのか」と話しかけてきます。入れ墨(ポリネシアでは部族を示すもの・当たり前前のもの)を彫った若者たちは、実に優しいのです。話し方も接し方も、本当に良い若者でした。「何故、このホテルにいるの」と聞くと、「この辺りの国道を拡げる工事で来ていて、その仕事のために何日か泊まっている」ということです。青年・壮年の男たちの何人かも笑いかけて、「ビールを飲もう。私が奢るよ」とか、「夜にここに来て。一緒に踊ろう」とか言ってきます。この夜は、私には忘れられない体験をしました。

はじめの方に書いたように、このルアトリアには、ドクター川瀬が1930年代(多分1931~1934年)に親交のあった国岡さん(ここで雑貨商をしていた)が住んでいました。この町からは、美しいヒ克蘭ギ山が見えます。



ホテルから見えるヒ克蘭ギ山(ルアトリア)

このルアトリアでの思い出をもう一つ書きます。この日の夜空(翌朝近く)は、よく晴れていて満天の星空でした。ホテルの窓から星空を見ていましたが、外に出て見たくくなりました。ホテルの内からは鍵を開けることができ、隣の大きな公園の遊具の上に腰を掛けて星空をスケッチしました(暗い中、手帳に感覚だけで描く)。少し夜が明けてきたときに、近く(公園沿いの道)を車がライトを点けて走り過ぎました。私は「不審な男が公園で一人座っていた」と知られなくなかったので、身を隠したつもりでした。車は公園の向こう側の

家の前に停まりました。その家の灯りが付き、それから15分～20分ぐらい経った後、その家から男の人がこちら（遊具）の方に歩いて来ます。私は内心ドキドキしました。先程、私は見付けられていて何か注意でもされるのかと思ったのです。男が声を掛けてきて（薄暗いというより、近くまで来ないと顔が見えないような時刻です。）、「私の家（店）に来ないか」と言ってきます。私は何も考えずについて行きました。家（店）は、パン屋さんで、朝の支度をしていました。コーヒーと一緒に飲みながら、昔に日本人が住んでいたことや私がこの東海岸地域に来たかったことを話しました。あれこれ談笑していると夜が明けてきました。店の主人にお礼を言って別れました。

ホテルへの帰り道に考えたことは、私が逆の立場だったらどうかということです。日本で私の住居近くの公園に早朝見知らぬ男が座っていたら、その男を自宅（職場）に招き、一緒にコーヒー（お茶）を飲むような行為ができるだろうか。

文が長くなってしまいました。このルアトリアから後の旅のことは、次回にしたいと思います。（トコマル湾・タロンガ湾→ギズボーン→ワイカレモアナ湖）

貴志 康弘

行事報告

臨時例会

樋口真弓さんを囲む食事会

クイーンズタウン在住の樋口会員が一時帰国された機会を利用して臨時例会を総会でお馴染みの中央電気倶楽部の会議室で11名の参加で開催しました。観光バス会社をご主人のニックさんと経営されていたのを帰国前に売却されたそうです。今後のことは帰国後、ニックさんの実家のあるダニーデンに転居してから考えるそうです。

冬のクイーンズタウンは、スキーを楽しむオーストラリア人で溢れているそうです。

日本からの観光客が少ないのが寂しいとのことでした。

浅田真央・舞姉妹の素顔のプライベート旅の番組がクイーンズタウン周辺で撮影されたそうですが、残念ながら先日放映は終わりました。自然の中で楽しく滑る姉妹の姿を見られた方もおられるでしょう。

10月11日のフジテレビ開局55年記念番組「東京にオリンピックを読んだ男」の撮影舞台に南島のオアマルが登場するそうです。ニュージーランドは、映画・テレビの舞台に使われることが多いそうです。



樋口さん

第246回例会報告(ギオン・コーナー)

あまり残暑を感じない9月13日(土)の夕刻に歌舞練場の切符売り場に10名が

集合し入場。事前に下見見学の依頼をしていたので2500円の外国人価格で

切符が購入できた。本来、3150円らしいが、ディスカウント・クーポンは

2800円、これがさらに値引き。どこかの国の2重価格制度を思い出したが、

ギオンでは、外国人には安い制度、これがおもてなしですか。

各出し物の前に日本語と英語で簡単に説明があり、その後デモンストレーション。

出席者の感想は次の通りです。

1時間で京舞・雅楽・琴・狂言・文楽・華道・茶道を鑑賞できるのは海外の観光客には便利だが物足りないと思う人や、それぞれの深い意味が十分に理解されないのでは。

日本人には、それぞれが短すぎて不満足では。舞妓さんを外国人多数の中で観て観光客になったように感じた。お座敷で本格的に遊びたくなった。日本の学生にも勧めたい。公演が終わった後、一方の前を通り、そば屋さんで懇親後解散。



京舞

兄が NZ 語学ホームステイ中に訪れて描いた「良き羊飼いの教会」の水彩画には 2 人の子供が描かれていました。西神ルーテル教会でその絵を見た瞬間に「これは、あの写真の絵だ」と即時に購入させてもらいました。こんな偶然で桑原兄を介して NZ 協会会員となりました。



ミッション・ベイにて

佐藤夫妻と

昨年に続いてミッションベイに佐藤夫妻を迎えての食事会に参加しましたが、楽しい集いでした。南大阪や明石市からも、若くして NZ でチャレンジされているご夫妻を励まそうと、駆けつけられたようです。ご夫妻は昨年もそうでしたが、定刻よりもかなり早く来られて皆さんをお迎えされていました。

参加者は私と同じ世代で一線を退いた方が多かったので「30才頃に何をしていたか」を披露することは、今の佐藤夫妻とつながるとともに参加者のルーツの一部を聴くことができました。皆様も同じでしょうが、現在につながる当時の仕事での出来事や子育て問題などを思い起こすことになりました。

社命でシンガポール勤務中にツアーで家族旅行しましたが、緑が多く山や湖の美しい風景に日本と共通点を感じ、常夏生まれで汗腺が開き切った子供達にはヘリで降り立った雪渓は強烈な経験でした。もうひとつ、テカボ湖の「良き羊飼いの教会」を背景に撮影した 2 人の子供の写真が 30 年後に出会いを演出しました。現在闘病中の桑原

皆様の発表は、次々と出される料理を食べる暇がないぐらいで、それぞれの人生に聞き入りました。はっきりと分かったことは、皆さんは明確な意志や動機があり自らの一步を踏み出されていることです。考えてみればそうですね、遠く離れてダウンアンダーの国に惚れ込む変わり者集団です。

最後にミッションベイの井上さん、貴重な温室柿を提供いただいた太津さんはじめ、お話しした皆様に感謝いたします。佐藤ご夫妻は順調に取り組まれているようですから頑張っていたきたいとお祈りいたします。これからも皆様よろしくお付き合いください。

外山 純

読書の秋です

事務局には、下記の本があります。ご希望の方には貸し出しが可能ですが、送料はご負担ください。

- ・ニュージーランド百科事典
 - ・世界の食文化、オーストラリア・ニュージーランド
 - ・キャサリーン・マンスフィールド短編集
 - ・クジラの島の少女
 - ・ニュージーランドを知るための63章
 - ・ニュージーランドのシャワーに打たれて
 - ・紅茶の本（堀江会員著）
 - ・協会40周年記念祝賀会DVD（宗佐会員制作）
- 残念ですが、川瀬初代会長の著書はありません。寄贈いただければ幸いです。

カンタベリー A&P ショウ

ニュージーランド最大の農業祭が11月12日から3日間、クライストチャーチで行われます。

1863年から開催され、約12万人の農業関係者と観光客・農業機械メーカー等で毎年大盛況です。家畜・農産物の品評会のほか乗馬、ワインと料理も楽しめるそうです。



スポーツの秋です

11月にニュージーランドから「マオリ・オールブラックス」が来日し2試合があります。

ニュージーランド代表「オール・ブラックス」に次ぐ強豪チームで世界ランキングでは6位か7位で、過去20試合で勝率90%。日本代表の奮闘を期待します。

協会行事としては観戦に行きませんが、有志の方は是非どうぞ。

観戦記を書いていただく方はおられませんか。

1)ノエビアスタジアム神戸

地下鉄湾岸線 御崎公園徒歩7分 11月1日(土)

2)秩父宮ラグビー場 神宮外苑 11月8日(土)



ニュージーランド情報入手先のご紹介

呉橋前会長からは、Google アラートを利用すると良いとのアドバイスをいただき、新会員の山下明さんからその操作方法を教えていただきました。パソコン初心者も簡単に利用できます。手順を同封します。このほか、

1)日刊ニュージーランドライフ

2)ニュージーランド大好きなどもあります。

*パソコンを利用されない方は、ご家族などに協力をお願いされてはどうでしょうか。NZに関して質問したいことがありましたら事務局へ。

会員のうごき（敬称略 住所 職業 趣味）

退会

清水優美子（香芝市）

城島康子（多摩市）

南園良三郎（奈良市）

南園さんは1984年入会、記念品を贈呈しました。

入会

行天茂夫（明石 会社役員 カメラ 旅行）

古賀一美（大和郡山 家庭菜園 旅行 編み物
カラオケ）

後藤まゆみ（枚方 主婦 旅行 合唱 読書）

中村重夫（奈良 不動産コンサル 登山 テニス 詩吟）

山下明（藤井寺 高校教員 ピアノ 茶道）

山下誠二（奈良 建築事務所経営 絵画 弓道）

新会員募集中です。当協会の趣旨に賛同される方
をご紹介ください。

メールアドレス変更

秋になり、アドレスを変更された会員が多いよ
うで、時々未着でメールが戻ってきます。

お手数ですが、変更された方は空メール、協会へ
の提案などを事務局へお送りください。

nzsjk1970@yahoo.co.jp

ご報告

事務所移転を機会に、宗佐・山田お二人のコラボ
による協会の看板が制作されました。マウント・
クックと富士山の絵、日本とニュージーランド国
旗が描かれています。また歴代4会長のお名前も
書かれています。柳田名誉会長からは額を寄贈い
ただきました。3氏に改めて感謝いたしますと
ともに、皆さんにご報告いたします。

尚、看板は、新事務所（中村会員事務所内）に掲
示しております。



お知らせ

ニュージーランド研究3団体合同例会

「ニュージーランド研究の現在」をテーマに3つ
の研究報告等の案内がまいりました。ご関心ある
方は、主催者へお問い合わせください。

と き：10月11日（土）13時～

と ころ：岐阜大学地域科学部

電話：075-491-2141

佛教大学 歴史学部 植村啓博氏

尚、12月6日にもニュージーランド学会の例会
が仏教大学で開催されます。
